

氏 名	岩下 真由美
学 位 の 種 類	博士（看護学）
学 位 記 番 号	甲第 1 号
学位授与年月日	2024 年 3 月 12 日
学位授与の要件	関西国際大学大学院学則第 35 条
1. 論 文 題 目	青年期以降に発症した 1 型糖尿病をもつ人のレジリエンス尺度の開発と信頼性・妥当性の検証
論文審査委員	（主査）関西国際大学 教授 高見沢 恵美子 （副査）関西国際大学 教授 齋藤 益子 （副査）関西国際大学 教授 蛭子 真澄

〔論文審査の結果の要旨〕

第 1 次研究で青年期以降に発症した 1 型糖尿病をもつ人のレジリエンスの内容を明らかにし、第 2 次研究で青年期以降に発症した 1 型糖尿病をもつ人のレジリエンス尺度を作成し信頼性と妥当性を検証している。

第 1 次研究はレジリエンスの内容を明らかにするために、糖尿病外来に通院している青年期以降に発症した 1 型糖尿病患者 21 名を対象に半構造化面接調査を行い、面接内容を質的帰納的に分析している。カテゴリー化されたレジリエンスの内容は、楽観的な性格などの個人的特性や、1 型糖尿病についての前向きな受け止め・インスリン注射に対する前向きな受け止めなどの捉えなおす力、ストレスに対する柔軟な対応・1 型糖尿病と共に生きることへの決意などの対処する力、生きていく上での抱負などの肯定的な未来志向の内容が表現されており、青年期以降に発症した 1 型糖尿病をもつ人のレジリエンス尺度構成概念に用いることができる内容であると考えられた。

第 2 次研究は糖尿病看護認定看護師 2 名及び 1 型糖尿病患者 1 名に、1 次研究で得られた 93 コードの表面妥当性と内容妥当性を検討してもらい 91 コードが採用された。採用された 91 項目と基準関連妥当性を検討するための既存の 2 型糖尿病の療養に伴うレジリエンス尺度を用い作成した無記名自記式質問紙調査を、専門外来通院中または糖尿病セミナー参加中の 1 型糖尿病患者を対象に実施している。有効回答が得られた 168 名のデータについて、項目分析と最尤法プロマックス回転による因子分析を行い因子負荷量 0.35 以上の項目を採用し、6 因子 50 項目の 1 型糖尿病をもつ人のレジリエンス尺度を作成している。尺度の Cronbach の α 係数は 0.875 であり、2 型糖尿病の療養に伴うレジリエンス尺度との総得点間の Pearson の相関係数は 0.556 ($p < 0.001$) で有意な相関関係があり、基準関連妥当性が認められた。

本研究で作成している 1 型糖尿病をもつ人のレジリエンス尺度は、内容妥当性、表面妥当性、基準関連妥当性があり、さらに高樽ら(2014)のレジリエンス概念分析で示されてい

る個人特性、対処する力、捉えなおす力の内容及び、小塩ら(2002)の肯定的な未来志向を測定できる構成概念妥当性を備えている1型糖尿病をもつ人のレジリエンスの状況を反映した尺度であると考えられた。

突然糖尿病を発症しインスリン注射による血糖コントロールが必要になる1型糖尿病を持つ人を対象に、セルフケアを促していくために必要なレジリエンスを把握することを目指したオリジナリティーある論文といえる。この尺度を使用することによって看護師が早期に1型糖尿病をもつ人の柔軟性や対処する力や未来志向を把握し、レジリエンスの低い側面に看護介入を検討できる示唆に富んだ、論旨の一貫した論文である。